

湘南短期大学紀要, 18, 15 - 24, 2007.

## 集団歯科保健指導への取り組み

### The Measure for Group Oral Health Guidance

伊ヶ崎理佳・石渡弥久・片岡あい子・嶋野浪江

Rika Ikazaki, Miku Ishiwata, Aiko Kataoka, Namie Shimano

(湘南短期大学 歯科衛生学科)

#### 【はじめに】

歯科臨床実習のなかで、幼稚園・保育園・小学校を対象とした集団歯科保健指導を実施している。その準備のために長期にわたり、多くの時間を費やしているが、実習時間内で細案や媒体を完成できず、放課後や夏休み等の実習時間外の作成を余儀なくされていた。毎年、集団歯科保健指導の感想として、「準備が大変であった」、「指導の場で緊張した」が多い。しかし、「楽しく、良い経験になり、やって良かった」といった感想が多いことも事実である。そこで、負担を軽減する方法はないものか、緊張しないためにはどうしたら良いか、検討する必要があると感じた。同時に、負担を軽減することの長所・短所についての判断も必要になると思われる。

指導法の改善や充実をめざし、学生がゆとりある生活の中から「考える力」や「やる気」を十分発揮できるよう環境作りを援助しなければならないという報告がある<sup>1)</sup>。

さらに、本学歯科衛生学科3年制カリキュラムの特徴のひとつにコミュニケーション能力の確保伸長があげられている<sup>2)</sup> ことにも見られるように、近年、コミュニケーションをとることを苦手とする学生も多い。個人とは違う集団の前で指導することに負担を感じる学生も多いと推察される。

そこで、今年度の集団歯科保健指導実施に際して、学生と教員の負担を軽減することでゆとりを持つこと、指導の場で、負担を感じることなく、力を十分に発揮できることを目標に、長年実施している集団歯科保健指導の実施方法を検討したので報告する。

#### 【集団歯科保健指導実施の流れ】

表1の学外歯科保健指導実施計画を基に進めた。

集団歯科保健指導では、『幼児・児童に対し集団指導を体験し、地域歯科保健を担う一員としての能力を養うこと』を最終目的とし、集団指導①②および情報収集法と整理では『地域保健対策の現状を理解し、集団指導のための情報収集と計画法を学ぶ』、『指導案・細案・媒体を作成する能力を養う』ことを目標として具体的には以下の内容について講義・実習を行った。

##### (1) 歯科保健指導の方法

集団指導と個人指導の違いを理解する  
小集団指導について理解する

##### (2) 口腔保健活動における歯科衛生士の役割 保健指導は対象が個人だけではなく、集団で行うことがある

##### (3) 活動の場とその理解

保健所、市町村保健センター、口腔保健セ

表1 学外歯科保健指導実施計画

項目	内容	時間(分)
集団指導①	講義 保健指導と衛生教育 小集団指導 学外歯科保健指導実習の流れ	180
情報収集と整理	講義 情報収集と整理 討論法 実習 原稿・小媒体作成	180
集団指導②	講義 作成原稿の発表 実習 小集団指導の進め方 学童・園児指導の進め方	180
集団指導③	講義 学外歯科保健指導実習の実際 スケジュール・作成物の確認 実習 担当者によるグループ指導	180
集団指導④	実習 細案・媒体プラン作成、点検	180
集団指導⑤	実習 細案・媒体プラン作成、点検	180
学外歯科保健指導①	実習 細案・媒体作成	180
学外歯科保健指導②	実習 細案・媒体作成	180
学外歯科保健指導③	実習 細案・媒体作成	180
予演①	実習 リハーサル	180
予演②	実習 リハーサル	180
予演③	実習 リハーサル	180
予演④	実習 リハーサル	180
学校別打ち合わせ①	実習 リハーサル	180
学校別打ち合わせ②	実習 リハーサル	180
実施①	幼稚園・保育園、小学校	360
実施②	幼稚園・保育園、小学校	360
実施③	幼稚園・保育園、小学校	360
実施④	幼稚園・保育園、小学校	360

ンター、幼稚園・保育園、学校、福祉施設  
スタッフの連携、地域の特性

(4) 保健指導の展開

対象の把握、時間の設定、内容の設定、方法  
の検討

(5) 計画案、原稿、媒体の作成

(6) 実施

(7) 評価と分析

(8) 情報の意義、収集、整理と活用法

情報収集の種類、伝達方法、図表の活用

(9) 集団討議法

シンポジウム、パネルディスカッション、バ  
ズセッション、KJ法、ブレインストーミング

(10) テーマ毎の原稿・小媒体作成、発表

続いて集団指導③④⑤および学外歯科保健指  
導①②③では担当する学年（年齢）の指導につ  
いて、学生4～6名に教員1～2名が1つのグ  
ループとなり、そのグループで学年目標ごと（表  
2）の対象把握のためのレポート作成に始まり、  
指導案、細案、媒体を作成した（表3, 図1, 図2）。

指導案については昨年までの反省を踏まえ教

員が基本となるものを作成した。

本学担当学生は126名である。対象となるク  
ラスは3歳児6クラス、4歳児6クラス、5歳  
児6クラス、1年生119クラス、2年生45クラス、  
3年生37クラス、4年生42クラス、5年生6  
クラス、個別支援学級7クラスである。学年ご  
とのクラス数に差があるのは実施地域ごとに対  
象学年が異なることによる（表4）。

予演①～④では実施グループごとに本番を想  
定してチーフ1名とアシスタント2名を1グ  
ループとして、リハーサルを実施した（図3）。  
リハーサルでは本番と同様に行うことを事前に  
伝達し、①指導内容を暗記していること ②時  
間配分が指導案通りに進行すること ③媒体や  
指導用歯磨き模型や歯ブラシが上手に使えるこ  
と ④アシスタントへの指示が的確に伝達でき  
ることについて評価した。また、時間内に合格  
できない学生については、どうして合格できな  
かったのかを担当教員と学生がディスカッシ  
ョンした後、実習時間外に日程調整し、再度リハ  
ーサルを実施した。合格できるまで繰り返し行っ

た。

学校別打合せは実施校ごとに、実施日、連絡先、担当者、引率者、集合場所・時間、諸注意等の伝達後、実施クラスごとにチーフ・アシスタントの打ち合わせおよび予演を行った。最初からの細案や媒体作成グループで実施できないかを試みたが一日に実施する学校数も多く、学年ごとのチーフ数も限られているため、実施クラスごとにチームを組み替えざるを得なかった。

ここまで準備を進め、いよいよ本番を迎えた(図4)。一人につき3校～4校を担当し、チー

フを2回～3回体験した。チーフの回数が不平等であるが、このことも実施学年のクラス数の違いや担当学年のチーフの数などを考慮した場合、全員を同じ回数にすることは不可能であり、早い時期から学生には説明し、了解を得てあった。

### 【検討内容】

例年、何をすればよいのか理解できず、とりかかるまでに時間がかかることも負担過重の一つの要因となっている。実習時間では作成が間

表2 歯科保健指導目標

3歳児	目標 歯に関心をもち、自分から歯をみがく態度を身に付ける。 内容 1. 歯みがきをしないとむし歯になることを理解する。 2. 上手なブクブクがいを会得する。 3. 自発的に歯をみがくようになる。
4歳児	目標 歯に関心をもち、自分から歯をみがく態度を身に付ける。 内容 1. 歯みがきをしないとむし歯になることを理解する。 2. 歯ブラシのあて方、動かし方を会得する。 3. どの歯にも歯ブラシがあたるようになる。
5歳児	目標 歯に関心をもち、自分から歯をみがく態度を身に付ける。 内容 1. 歯みがきをしないとむし歯になることを理解する。 2. ていねいに歯の各部分をみがけるようになる。 3. 第一大臼歯の特別みがきができるようになる。
1年生	目標 自分の歯について関心をもち、口の中をきれいにする態度を身に付ける。 内容 1. 歯の交換について理解する。 2. 第一大臼歯を萌出中からみがけるようになる。 3. 上手な歯のみがき方の基本を習得する。
2年生	目標 歯の役割を知り、歯を大切にすることを身に付ける。 内容 1. 歯の役割を理解する。 2. 歯みがきの大切さを理解し、上手なみがき方を会得する。
3年生	目標 上手なおやつとり方を知り、歯を守る態度を身につける。 内容 1. 上手なおやつとり方を理解する。 2. 自分に適した歯のみがき方を会得する。
4年生	目標 歯の健康を守る態度と能力を身に付ける。 内容 1. むし歯の原因、進行、その害について知る。 2. むし歯予防のための上手な歯のみがき方を会得する。
5年生	目標 積極的に口腔の健康を守る態度を身に付ける。 内容 1. 歯の汚れによるむし歯と歯肉の病気の関係を理解する。 2. 自分の口腔に適した歯みがきを会得する。
個別支援学級	目標 歯に関心をもち、自分から歯をみがく態度を身に付ける。 内容 1. 歯の大切さを理解する。 2. 歯みがきをしないとむし歯になることを理解する。 3. 歯ブラシのあて方、動かし方を会得する。

表3 指導案（2年生 見本）

歯科保健指導 指導案		湘南短期大学 歯科衛生学科
		氏名 _____
No. _____		
1. 実施日 平成18年 月 日 2. 対象 横須賀市立 稲岡小学校 2年 1組 3. 目標 歯の役割を知り、歯を大切にすることを身に付ける。 1. 歯の役割を理解する。 2. 歯みがきの大切さを理解し、上手な歯のみがき方を会得する。		
4. 指導過程		
学習過程	児童の活動	留意点・資料
導入 学習の準備をする (3分)	<input type="checkbox"/> 指導者を知る <input type="checkbox"/> 本時の学習目標を知る ・歯の役割を知る ・上手な歯のみがき方を会得する <input type="checkbox"/> 準備機材を確認する	自己紹介、アシスタントの紹介 図『目標』  予備の歯ブラシを準備する
展開 1. 歯の役割を理解する (12分)	<input type="checkbox"/> 歯はどんな役割をしているのかわかる ・咀嚼する 歯の形の違いにより働きに違いがあることを知る ・発音する ・審美性を良くする ・力を出す	指示棒 図『前歯と奥歯の働き』 図『話しにくい言葉』 図『むし歯だらけの口』『きれいな歯』 図『重たい荷物を運ぶ』 図『歯の役割』
2. 自分の口腔状態を知る (4分)	<input type="checkbox"/> 自分の口腔を観察する ・鏡で口の中の様子を見る <input type="checkbox"/> 口腔清掃時、特に注意する部位を把握する ・乳歯脱落部位、萌出したての歯、歯列不正部位 ・う蝕好発部位(咬合面、隣接面、歯頸部)	手鏡 図『2年生の口の中の様子』 指導用顎模型
3. 歯みがきの重要性を知る (2分)	<input type="checkbox"/> 大切な歯をむし歯から守るためには歯みがきが大切なことを知る	タオル、洗濯バサミ、歯ブラシ
4. 効果的な歯みがきを習得する (13分)	<input type="checkbox"/> 上手な歯のみがき方がわかる <input type="checkbox"/> 胸あてをつける <input type="checkbox"/> 歯ブラシはみがきやすい持ち方で持つ <input type="checkbox"/> スクラビング法を確認する 毛先を歯面に直角にあてる 弱い圧でみがく 細かく動かす 前歯舌側・口蓋側は歯ブラシを縦にして 毛先でみがく <input type="checkbox"/> 注意すべき部位を丁寧にみがく <input type="checkbox"/> 胸あてをとる	手鏡、コップ 指導用顎模型・歯ブラシ  途中の排唾はコップにする アシスタントは机間指導する
まとめ 学習内容を復習する (5分)	<input type="checkbox"/> 歯の役割を復習する <input type="checkbox"/> スクラビング法の基本を確認する <input type="checkbox"/> 歯みがき後の洗口の重要性と歯ブラシの洗い方を確認し実践する	
後片付け (6分)		貸し出した歯ブラシを回収する
5. 参考資料 『歯科保健指導』 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社		

に合わず、放課後や夏休みに媒体等を作成することが多く見られる。学生にも教員にも負担がかかり、お互いに十分なコミュニケーションもとれずに準備に追われているのが現状であった。さらにグループ作成であっても、時間外に残る学生に限られ、学生間にトラブルがおき、一部の学生に特に負担がかかる傾向が見られた。また、作成で疲れてしまい、余力が残っていないのか、できあがっても、細案を暗記し、媒体を

上手に使うことができず再予演が多くみられた。そこで今年度は準備段階で学生と教員の負担を軽減すること、指導の場で力を十分に発揮できることを目的として、計画し、実施した。その検討した内容について報告する。

1. 実際にどのようなことをするのか理解しやすいように、最初の授業で教員が模擬指導（以下 実演）を実施した。

児童や園児はその場にはいないため、場を身

近に感じられるように、学生には実演の対象学年として参加するよう要請した。さらに実演の後、前年度の集団歯科保健指導実施の写真を学生に見せた。長期にわたる実習のため、学生が苦痛を感じることなく進められることを目的として実施した。

2. 作成時間短縮のため学年ごとの目標にあわせ、指導案の見本を教員が作成した。

原則として従来、指導案については一部（展開）を除いて、教員が見本となるものを作成してい

たが、学生にとってはその空欄となっていた展開を決めることに一番時間を要したようである。そこで学年目標は、共通としているので、展開についても教員が提示し、そこから学生が指導しやすいよう変更した。

3. 細案についても各学年共通の項目（学習の準備、ブラッシング）については教員が作成した。

従来、細案については全て学生が作成していたが、表3の指導案の学習過程の導入・後片付けについては全学年共通、展開・まとめについ

表4 実施地区別対象学年、クラス数

	学校数 (校)	クラス数 (クラス)								
		3歳	4歳	5歳	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	個別支援
鎌倉地区	16				44	40	37	42		5
小田原地区	25				65					2
湯河原地区	3				8					
真鶴地区	1				2					
箱根地区	小学校	5				5			6	
	幼稚園・ 保育園	5	6	6	6					
計	55	6	6	6	119	45	37	42	6	7



図1 グループ作成



図2 グループ作成



図3 予演



図4 小学校での集団歯科保健指導

ては目標にそって作成するため、細案の内容は学年ごとにほぼ同じである。そこで教員が見本となるものを作成し、学生が指導しやすい内容に変更した。

4. 1～3で作成時間を短縮し、実際の練習時間を長く設定する。

主に見直した内容は、上記1～4についてであるが、さらに、1分間スピーチの時間を設けた。これは、自分でテーマを決め、1分間でまとめることで時間的な感覚を養い、人前で話すことに慣れるという主旨で実施した。

### 【結果および考察】

例年、学年ごとの目標を頼りに指導案、細案、媒体をグループで作成する。基本的な指導案の例や教員のアドバイスはあるものの、特に身近に対象年齢の子供と接する機会がない学生は、子供への対応がイメージできず、対象把握の段階でとまどったようである。いざ、作業を進めようと思っても、「なかなか進まずに時間ばかりが経ってしまった」との感想も多く見られた。スタートの時点で、すでに時間がかかりすぎていることも学生の不安、負担につながっているものと思われる。

そこでいくつかの改善策を試みた。学生には実習終了後、①準備時期（課題 指導案 細案 媒体作成）②予演 ③1分間スピーチ ④チーム・アシスタント時の感想 ⑤グループメンバー・教員とのかかわりについてレポートを提出してもらった。回収率は94.4%（119名）で複数回答である。回答は自由に記述してもらい3名以上の学生が記述した項目についてまとめた。選択式のアンケートとは違い、集計するのは容易ではないが、学生の生の声を聞くことができた。今回の取り組みについて、その記述内容を参考に、効果があったのか、なかったのか、さらに新たな改善点は何かを教員の反省会の内容と併せて考察した。レポートの集計を図5～

図9にまとめる。

#### 1. 最初の授業で教員が実演した

実際の場合での実施内容が理解でき作業をスムーズに進められたようである。学生のレポートには教員の実演についての項目はないが、一連の流れをつかむだけではなく、媒体作成の参考にもなったようであった。実演を真剣に見入る姿が伺えた。最初に実演を見ることでイメージが膨らんだようであった。

#### 2. 指導案の見本を教員が作成した

時間短縮につながり、次の細案・媒体作成にスムーズに移行できた。学生のレポートの準備時期については、他の項目に比べ、記述した学生は多くはなかった（図5）。準備期間が長く、どの時期について記述すれば良いのか、解りにくかったものと思われる。そのなかでも、「最初はとまどったが内容がほぼ示されていたのでスムーズにできた」と13名（10.9%）があげていた。このことが学生の学習不足になったのかは、実際の指導現場を見て、問題はなかったと判断できた。従来、ほぼ完成した指導案をグループ毎に準備していたが、話を組み立てるうえで柱となる展開の内容で、細案や媒体も決まってくる。そう考えると、指導案の展開を決めることに学生が苦戦していたことが伺える。

#### 3. 細案についても各学年共通の項目については教員が作成した

細案作成についても、教員が各学年で共通する部分を作成することで、大幅な時間短縮を可能とした。例年、細案と媒体はグループのメンバーで担当を分け、同時に進行するが、膨大な時間を要した。しかし、今年度は放課後や夏休み等の時間を使用することは例年より少なかったが、細案、媒体は良いものに仕上がった。

このことは、細案作成に時間がかからずグループ全員が媒体作成を行ったためとも考えられる。しかしそのことだけではなく、図9のグループメンバー・担当教員とのかかわりで、「みんな

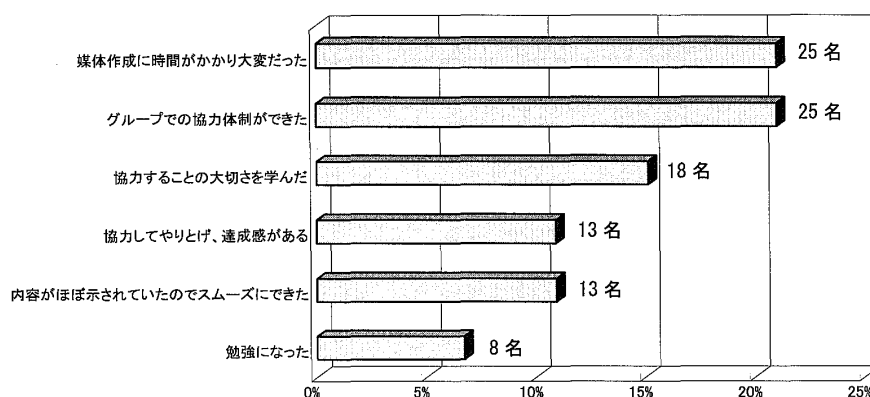


図5 準備時期について

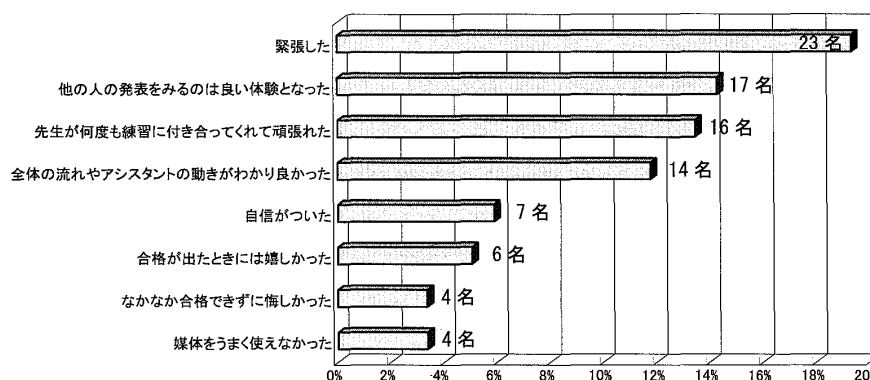


図6 予演について

で協力し進めることができた」63名 (52.9%)、「先生の助言があり、良いものに仕上がった」40名 (33.6%)、「日を重ねるうちに、すごく仲良くなった」8名 (6.7%)、「先生との距離が近くなったと感じる」と8名 (6.7%)があげていた。特に、グループメンバーや教員とのトラブルもなく進行できたのは、時間や気持ちのゆとり起因していると考えられる。学生の時間的なゆとりが、気持ちのゆとりにもつながり「考える力」や「やる気」が発揮できたと思われる。教員についても、細案の見本を作成することで、数多くの細案の手直しにかかった負担が軽減し、その分、細部にわたり丁寧に学生指導ができたようである。

#### 4. 練習時間を長く設定する

作成において短縮できた時間を練習にまわすことができた。最終点検の際、単にできあがったものを確認して終わりにするのではなく、媒

体を用いながら細案と読みあわせをすることができた。つまり予演のための練習をすることができた。予演を1回で合格する学生が例年より多かった。予演の感想を図6に示す。「緊張した」と23名 (19.3%)があげている。他には「なかなか合格できずに悔しかった」4名 (3.4%)、「媒体をうまく使えなかった」と4名 (3.4%)の感想も見られるが、「他の人の発表を見るのは良い体験となった」17名 (14.3%)、「全体の流れやアシスタントの動きがわかり良かった」14名 (11.8%)、「自信がついた」と7名 (5.9%)があげていた。短縮できた時間を練習にまわすことの利点として予演を1回で合格できたことだけではなく、過去には、できあがっていたはずの細案や媒体が、予演の段階になって手直しが入り、学生が不満を漏らすこともあったが、今年度はそういった不満の声も聞かれなかった。また、予演が1回で合格できなかった学生は少

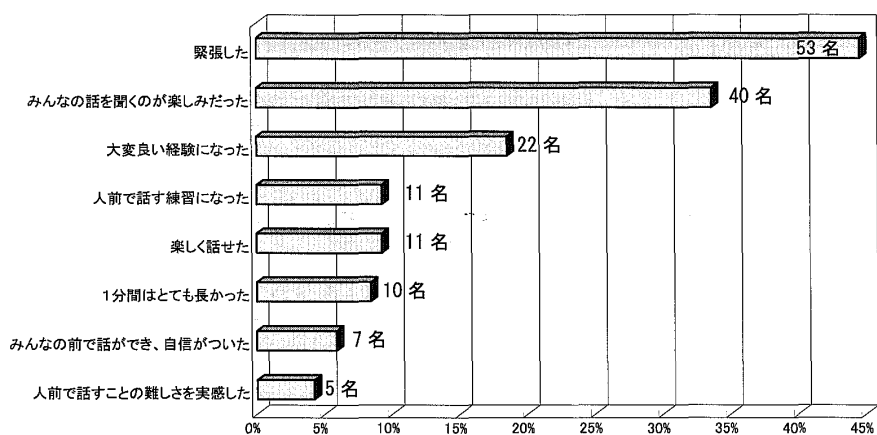


図7 1分間スピーチ

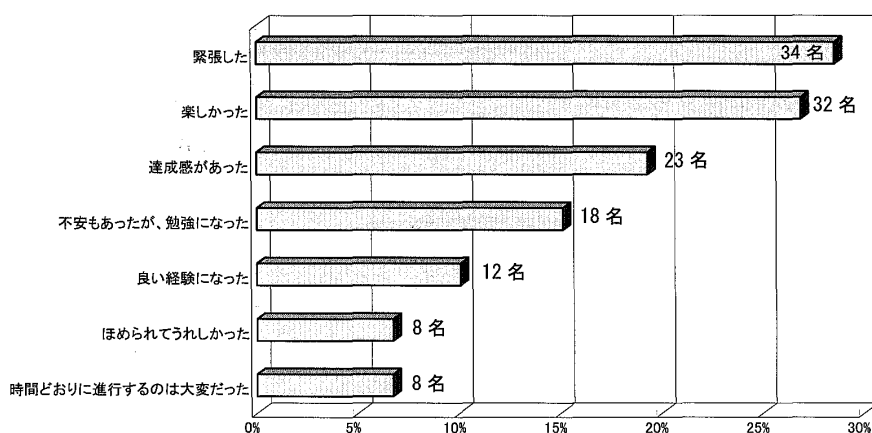


図8 チーフ・アシスタントを体験しての感想

数であり、教員も学生に対して十分に援助することができ、途中で諦め、挫折する学生がいなかった。感想に「先生が何度も練習に付き合ってくれて頑張れた」と何度か予演を繰り返した学生の大半にあたる16名(13.4%)が感謝の気持ちをあげている。

その他として1分間スピーチでは、話す立場で「緊張した」とあげた学生は53名(44.5%)と多く見られたが、「よい経験になった」22名(18.5%)、「人前で話す練習になった」11名(9.2%)、「楽しく話せた」と11名(9.2%)があげていた。学生のレポートで図6の予演、図7の1分間スピーチ、図8のチーフ・アシスタントを体験しての感想で、「緊張した」を一番にあげている。指導法に、さらなる工夫が必要であると思われる。しかし、最初に実施した1分間スピーチで53名(44.5%)が緊張したと

あげているが、予演では23名(19.3%)と減少し、集団の前で話したチーフ・アシスタントを体験しての感想では34名(28.6%)が緊張したとあげている。むしろ楽しいと記述した学生が増えていることも見逃してはならない。1分間スピーチは緊張したと同時に良い体験となったことの証と考えられる。また、聞く立場として、「みんなの話を聞くのが楽しかった」と40名(33.6%)があげた(図7)。自己紹介のなかで、趣味や特技の話をした学生も見られ、おそらく、その後共通の話題として友達作りの一助となったと考える。コミュニケーションをスムーズにとれない学生が見られるなか、少しはコミュニケーション手段として役に立ったのではないかとと思われる。

見直した項目として、今回、媒体については除外したが、例年よりは短時間で良いものに仕



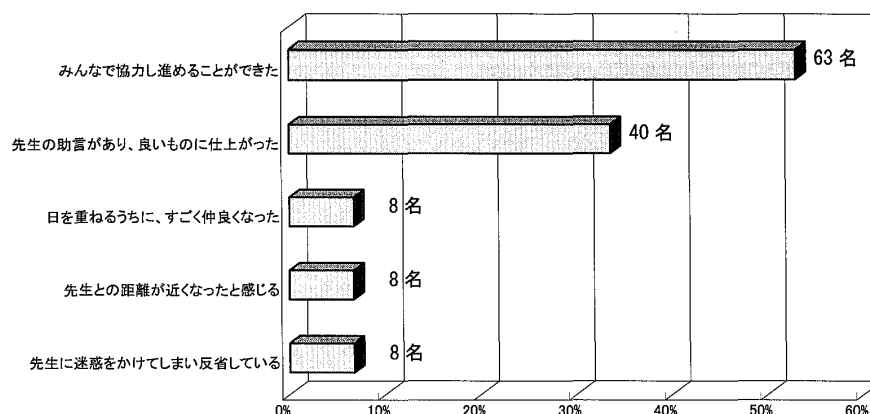


図9 グループメンバー・担当教員とのかかわり

上がった。それでも、「媒体に時間がかかり大変だった」とあげた学生は25名(21.0%)と多かった(図5)。全学年共通して実習の目標と歯磨きのポイントの図や絵、口の中の様子を示した大きな図、学年ごとには低学年では紙芝居やポスター、中学年では主に食品やむし歯の成り立ちの図、さらに特別磨き用の模型や歯ブラシなどの媒体を作成したが、どの媒体も大掛かりなものであり、その負担を軽減する検討も必要になる。しかし、時間短縮を最優先させるのではなく、負担を軽減することの長所・短所について判断すると、図5の準備時期に「グループでの協力体制ができた」25名(21.0%)、「協力することの大切さを学んだ」18名(15.1%)、「みんなで協力してでき、達成感がある」と13名(10.9%)があげていたことに見られるよう、グループワークの大切さや楽しさを学生のうちに学ぶことも保健指導の立場からの重要な指導の一つと考える。

### 【おわりに】

本学での集団歯科保健指導は歴史が長く、地区ごとに開始時期は異なるものの、昭和36年から開始されている記録がある。その間、社会の流れに合わせて、その方法に変化や工夫を加えながら46年もの歴史があることになる。

今回は、年々学生の負担が増えてきているように見られることから、学生だけではなく、教

員の負担も軽減するための実施方法の検討を行った。学生にとっては初めての实習であり、昨年までと比べて負担が軽減したのかどうか、学生には判断できないが、レポート内容からは負担が軽減したことは確認できる。また、長年担当してきた教員から見ると、時間の短縮につながったことは明らかであり、検討した目的は達成したことになる。さらに途中で投げ出す学生は一人もおらず、欠席した学生も一人だけだったことは、ここ数年には見られなかった快挙である。学生と教員が十分にコミュニケーションをとることができ、学生への励ましが頑張ろうとする気持ちにつながったと学生のレポート内容からも推察される。

担当した教員側からも負担が減り、学生とのかかわりにもゆとりをもてたとの感想があった。

初めてこの実習を担当した教員からは楽しかったとの感想も聞かれた。

学生や教員にとっては指導案、細案、媒体作成時の時間短縮ができ、負担が減ったことは良かったが、最終的には現場での指導が上手にできるかどうかが一番の問題である。チーフ・アシスタントを体験しての感想としては、「緊張した」が一番多く、34名(28.6%)があげていた。次いで「楽しかった」は32名(26.9%)があげていた。三番目に多かったのは「達成感があった」で23名(19.3%)、続いて、「不安もあったが、勉強になった」は18名(15.1%)、「良い経験に

なった」は12名(10.1%)があげていた(図8)。今年度は規模の大きな学校には引率者の数を増やし、学生の状況把握に努めた。概ね良好であり、今回の検討した内容については学生、教員、現場の声を総合して、効果があったと思われる。

次年度に向けて、新たに媒体作成についてどのように進めていくか、そして今年度と同様に学生のやる気を維持させるための工夫が課題となりそうである。

#### 参考文献

---

- 1) 伊ヶ崎理佳 金子ケイ子：歯科衛生士学生の学習習慣、湘南短期大学紀要, 12、9-16、2001
- 2) 長谷徹他：歯科衛生学科3年制カリキュラム編成の要旨と求められる歯科衛生士像について、湘南短期大学紀要, 17、51-57、2006

稿を終えるにあたり、貴重な実習の場を提供していただいた小田原市および鎌倉市の歯科医師会ならびに学校保健課の皆様方に感謝申し上げます。